

2024年度

ITエンジニア科4年制
講義計画集

— 第1学年 —

氏名

船橋情報ビジネス専門学校

〒273-0005 船橋市本町7-12-16

電話:047-425-1051

前期								後期															
4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1月	始業式	1水	水4回 研修合宿 U,G	1土		1月	月12回	1木	オープンキャンパス	1日		1火	火4回	1金	金8回	1日	ジョブパス	1水	元旦	1土		1土	
2火		2木	水4回 研修合宿U,G	2日		2火	火12回	2金		2月	職員不在日	2水	水4回	2土	漢字検定	2月	月10回	2木		2日		2日	
3水	新入生 オリエンテーション	3金	憲法記念日	3月	月8回	3水	水13回	3土		3火	職員不在日	3木	木3回	3日	文化の日	3火	火12回	3金		3月	月15回	3月	26卒学内合説
4木		4土	みどりの日	4火	火8回	4木	木13回 体育祭	4日		4水	F J B 合同 合宿	4金	金4回	4月	振替休日	4水	水12回	4土		4火	火16回	4火	
5金	入学式	5日	こどもの日	5水	水9回	5金	金12回	5月	SC(3U・2U)	5木		5土		5火	火8回	5木	木12回	5日		5水	水16回	5水	卒業判定会議
6土		6月	振替休日	6木	木9回	6土		6火		6金		6日		6水	水8回	6金	金13回	6月		6木	木17回	6木	卒業生登校日
7日		7火	月曜振替4回	7金	金8回 駅前C	7日	ジョブパス	7水		7土		7月	月4回	7木	木8回	7土		7火		7金	追試 科目修得試験	7金	卒業式
8月	前期スタート 月1回	8水	水5回	8土	休館日	8月	月13回	8木		8日		8火	火5回	8金	金9回 ひろえび船橋	8日		8水	水13回	8土		8土	
9火	火1回	9木	木5回	9日	科目A免除試験	9火	火13回	9金		9月	後期スタート 月1回 レポート提出期限	9水	水5回	9土		9月	月11回	9木	木13回	9日		9日	
10水	水1回	10金	金4回	10月	月9回	10水	水14回	10土		10火		10木	木4回	10日		10火		10金	金14回	10月		10月	
11木	木1回	11土		11火	火9回	11木	木14回	11日	山の日	11水	水1回	11金	金5回	11月	月7回	11水		11土		11火	建国記念の日	11火	
12金	金1回	12日		12水	水10回	12金	金13回	12月	振替休日	12木	木1回	12土		12火	火9回	12水	SC (2U・1U)	12日		12水		12水	
13土		13月	月5回	13木	木10回	13土	オープンキャンパス	13火	受付 業務 停止	13金	金1回	13日	国家試験	13水	水9回	13金		13月	成人の日	13木	卒業研究発表会	13木	進級判定会議
14日		14火	火5回	14金	金9回	14日		14水		14土	オープンキャンパス	14月		14木	木9回	14土	オープンキャンパス	14火	火13回	14金	卒業研究発表会	14金	終業式
15月	月2回	15水	水6回	15土	県民の日 オープンキャンパス	15月	海の日	15木		15日		15火	火6回	15金	金10回	15日		15水	月曜振替12回	15土		15土	オープンキャンパス
16火	火2回	16木	木6回	16日		16火	火14回	16金		16月	敬老の日	16水	水6回	16土		16月		16木	木14回	16日		16日	
17水	水2回	17金	金5回	17月	月10回	17水	水15回	17土		17火	火2回	17木	木5回	17日		17火		17金	金15回	17月		17月	
18木	木2回	18土		18火	火10回	18木	木15回	18日		18水	水2回	18金	金6回	18月	月8回	18水		18土		18火	26卒Web面接練習	18火	
19金	金2回	19日		19水	水11回	19金	金14回	19月		19木	月曜振替2回	19土		19火	火10回	19水		19日		19水	SC (1U・2U) 卒業生成績発表	19水	
20土		20月	月6回	20木	木11回	20土	体験入学	20火	成績発表 科目修得試験	20金	金2回	20日		20水	水10回	20金	SC(3U)	20月	月13回	20木		20木	春分の日
21日	国家試験	21火	火6回	21金	金10回 レポート提出期限	21日		21水	SC(1U)	21土		21月	月5回	21木	木10回	21土		21火	火14回	21金	在校生成績発表	21金	
22月	月3回	22水	水7回	22土		22月	月14回	22木		22日	秋分の日	22火	火7回	22金	金11回 レポート提出期限	22日		22水	水14回	22土		22土	
23火	火3回	23木	木7回	23日		23火	火15回	23金	体験入学	23月	振替休日	23水	水7回	23土	勤労感謝の日	23月		23木	木15回	23日	天皇誕生日	23日	
24水	水3回	24金	金6回	24月	月11回	24水	水16回	24土	同窓会	24火	火3回	24木	木6回	24日		24火		24金	金16回	24月	振替休日	24月	
25木	木3回	25土		25火	火11回	25木	木16回	25日		25水	水3回	25金	金7回	25月	月9回	25水		25土	漢字検定	25火		25火	
26金	金3回 レポート提出期限	26日		26水	水12回	26金	金15回	26月		26木	木2回	26土	若幸祭前日準備	26火	火11回	26木		26日		26水		26水	プレススクール
27土		27月	月7回	27木	木12回	27土		27火	再試発表	27金	金3回	27日	若幸祭	27水	水11回	27金		27月	SC(3U) 月14回	27木	球技大会	27木	
28日		28火	火7回	28金	金11回	28日	科目A免除試験	28水		28土		28月	若幸祭振替休日	28木	木11回	28土	受付 業務 停止	28火	火15回	28金	再試発表	28金	
29月	昭和の日	29水	水8回	29土	漢字検定	29日	月15回	29木		29日		29火	若幸祭振替休日	29金	金12回	29日		29水	水15回			29土	
30火	火4回	30木	木8回	30日		30火	追試	30金		30月	月3回	30水	月曜振替6回	30土		30月		30木	SC (1U・2U) 木16回			30日	
		31金	金7回			31水		31土				31木	木7回			31火		31金	金17回			31月	
																		※台風など臨時休校が多い時は12月3週で対応		※25卒入社前講話		※年間講義回数 月 30回 火 31回 水 32回 木 32回 金 32回	

1学年

本校の教育方針	1
評価について／出欠席ルール	3
FJBネットID登録とメールアドレス	4
実習室・インターネット使用上のルール・マナー	4
個人情報保護に関する基本方針	5
教育目標と検定スケジュール	6
セキュリティとネットワーク	大下 翼	7
セキュリティ	大下 翼	8
アルゴリズムとデータ構造 I・II	菊池 浩之	9
ハードウェア	花田 秀宣	11
ソフトウェア	花田 秀宣	12
システム設計	菊池 浩之	13
ストラテジとマネジメント	菊池 浩之	14
データベース	菊池 浩之	15
Oracleデータベース演習	大下 翼	16
国家試験対策	菊池 浩之	17
Office演習	大下 翼	18
応用セキュリティ	若井 誠文	19
応用ネットワーク基礎	若井 誠文	20
応用プロジェクトマネジメント	野本 修平	21
応用サービスマネジメント	野本 修平	22
応用プログラミング	秋山 純一	23
Java言語演習 I・II	秋山 純一	24
検定対策 I・II	菊池 浩之	26
やってみなはれ演習 I・II	菊池 浩之	28

本校の教育方針

船橋情報ビジネス専門学校
校長 鳥居 高之

教育理念「若者をハッピーに」

これが本校の教育理念です。しかし幸せの形は人によって違いますし、卒業式で「はいどうぞ」と手渡しできるものではありません。在学中だけハッピーならよい訳でもありません。その後こそ重要です。従って私たち教職員の使命とは、学生のみなさんが職業人・社会人として豊かな人生を送るために、その土台作りのお手伝いをするという事になります。あくまでも主役は学生本人です。また社会に出てハッピーになる最低条件としては、大人として自立していなければなりません。その自立に欠かせないのが自律です。自律とは自分と闘うということです。ただ欲望や本能のままに行動するなら動物と同じです。すなわち、「自律 → 自立 → ハッピー」という順番です。私達もみなさんのお手伝いに全力を尽くしますが、自立した大人になる独力を忘れないでください。

勉強は教わるものではない

初年度のみ先生方は手取り足取り親切に教えてくれます。高校までに自分なりの勉強方法が身に付いていない人もいますからです。しかし2年目からは最後まで教えません。「まずは自分で考えてみなさい」と指導します。なぜでしょうか。将来みなさんが就職する会社に、そんな面倒見のよい上司や先輩がいるでしょうか。みな仕事を抱えています。社会に出れば自分で勉強するのが当たり前です。質問・相談もできますが、自分で調べて考えるのが大原則です。その姿勢を在学中に身に付けてください。2年生になって先生の態度が変わるのはそのためです。急に厳しくなったと勘違いする学生がいますが、みなさんの真の成長を望んでいるのだということに気付いて欲しいです。

またスピード制限もしていません。もし授業の内容を既に理解していると感じる人は申し出てください。指導教員がそう判断すれば別メニューを設定します。クラス全体に歩調を合わせる必要はありません。どんどん前に進んでください！

人間教育の重視

人と接するのが苦手だからコンピュータの仕事に就きたいという学生がいます。大きな勘違いです。コンピュータの向こうには生身の人間がいます。どんなビジネスでも主役は人です。技術や資格ではなく人が仕事をするのです。そして人は一人では生きて行けない生き物です。仕事にせよ日常生活にせよ、常に他者との係わりの中で生きています。本校は単なる就職予備校ではないのです。人間教育を技術教育以上に重視しています。特に次の2つを心がけて欲しいです。

元気に明るく挨拶（あいさつ）

明るい人はみんなに好かれます。明るさの第一歩は、自分から元気に挨拶することです。そのような新入社員は職場でも愛されます。学校の先生方や来校されるお客様に練習台になっていただき、どんどん自分から挨拶しましょう。

3つの守り

本校がとても大切にしている3つの守りとは、「時間を守る、約束を守る、ルールを守る」です。単純ですが、当たり前のことを当たり前にやるのは実は大変なことです。自律できない人は自分と闘えません。つまり自立もできません。

「ルールを守る」に関しては考えて欲しいことがあります。学校生活だけでなく今後の生き方にも係わることです。ルールや法律を守るのは、叱られない罰せられないためでしょうか。世の中を見渡すと、法に触れなければいい、見つからなければいい、と考える者もいます。真の大人になり損ねた、自己中心のニセ大人です。みなさんには、「そんなことをしたら人として、大人として恥ずかしい」と自分を律して行動できる、良識ある職業人・社会人になって欲しいと願っています。以下校内のルールやマナーについて、少し補足しておきます。

通学

- (1) バイク・自動車通学全面禁止。
- (2) 自転車は学生課に登録し所定の駐輪場所を利用。

エレベーター

- (1) 学生はドアの注意書きに従うこと。下りは全面禁止。
- (2) 授業開始前および終了後の5分間は使用禁止。(教員優先)
- (3) 3号館は全面使用禁止。

禁煙

教職員、学生、成年、未成年者にかかわらず校内及び天沼公園・学校周辺は全面禁煙。

※船橋駅前から本校までの路上喫煙は条例により禁止され罰金の対象です

交通ルール

3号館前の大通りは横断絶対禁止。過去に死亡事故あり。横断歩道を使うこと。

重大なルール違反やマナー違反をした場合は、校長面接の上、停学や退学処分になることもありますので、学生の本分を守り勉学や学校生活に励んでください。なお本校では、学生が直接メールを校長宛に出すことができます。何か要望や相談があれば、いつでもメールしてください。 takatorii@mitsuhashi.ac.jp

以上

評価について

- (1) 評価とは成績証明書にS～Dで表現され記載される、その科目の最終的な成績のことを指す。
- (2) 評価は、合計点を用いて算出する。合計点とは、定期試験の素点に授業態度や出席状況、課題提出等の平常点を合計して算出したものである。

評価は以下の基準を用いる。(点または%)

S	90以上
A	80～89
B	50～79
C	40～49
D	39以下

- (3) 評価Dの者は、単位未修得者として処理される。
- (4) 評価Dの者には所定の手続きの後、再試験を実施する。ただし、再試験は特別の場合を除き、レポートに代替する。再試験に合格した場合その科目の評価はCとする。(特別な努力が認められたものは、B評価になることもある。)

GPA(Grade Point Average)

GPAとは、学生の成績の平均値を表したもので学期ごとにGPAを算出する。算出方法は以下の通り科目の評価(S～Dの5段階)に応じて、4.0～0.0の得点(GP)を設定し、科目ごとの得点(GP)に科目の単位数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を履修科目の総単位数で割り、少数点第二位を四捨五入したものをGPAとする。

なお、GPAを算出するタイミングは各学期の成績発表時点とする。その時点で評価がDの科目のGPは、後日再試験に合格していても0.0となる。

$GPA = \frac{【GP \times 履修科目の単位数】の合計}{履修科目の総単位数}$

出欠席ルール

- (1) 遅刻3回で欠課1回、欠課6回(1年生はSHR分の遅刻1回を含む)で1日の欠席とみなし、次の条件で換算する
 - ・SHRの遅刻及び欠席で「遅刻1」※SHRは1年生のみ
 - ・授業開始15分までの入室で「遅刻1」
 - ・授業開始15～45分までの入室で「欠課1」
 - ・授業開始45～60分までの入室で「欠課1+遅刻1」
※90分授業の前半45分の欠課1、後半15分までの遅刻1という考え方でカウントする
 - ・授業開始60分以降の入室で「欠課2」
- (2) 年間55日の欠席で進級停止、退学勧告。
- (3) 交通機関の乱れによる遅刻の場合は「遅延証明をもらう」。ただしバスは適用外。

レベル	欠席日数	学校側からのアクション	備考
1	無断欠席	担任が自宅へ電話する	
2	累積10日欠席	自宅へ警告書を郵送する	警告書の郵送は累積10日になった時点で行う。
3	累積25日欠席	校長面接を行う	警告書の郵送は累積25日になった時点で行う。
4	累積40日欠席	校長面接において「退学警告」を行う	保護者同伴で行う。
5	累積50日欠席	校長面接において「最終警告」を行う	同上
6	累積55日欠席	①自宅へ退学勧告通知書を郵送する ②掲示板に名前を張り出す	退学を勧告する。

※「退学勧告」とは・・・1ヶ月以内に退学届けを提出すれば「自主退学」扱いとなります。以後は「強制退学処分」とします。

卒業認定

以下の条件に基づき学校長と教職員による卒業判定会議を経て学校長に認められた者について卒業を認定する

- (1) 履修した全ての科目において単位修得していること
- (2) 原則として各年度において年間55日以上欠席がないこと

FJBネットID登録とメールアドレス

1. ユーザID登録について

本校では、学生1人ひとりにユーザIDを発行しております。このIDでログインすると、学校内のネットワーク環境が利用できます。課題の保存、教材の受け渡し、メールでのコミュニケーションなどに活用して下さい。

2. メールアドレスについて

(1) 科によってメールアドレスが設定されています。

詳細は担任から説明があります。

(2) 「FJBインターネット&イントラネット」画面の「先生へのメール」をクリックして電子メールを活用して下さい。

(3) Webメールでの各個人に与えられている容量は50MBまでです。整理せずに企業からの大切なメールを受理できないケースがありました。不必要なメールはこまめに消去してください。

3. 緊急連絡について

クラスの諸連絡、台風や大雪等の休校等の連絡はグループコミュニケーションツールを使用します。(スマートフォンでも使用可能)各自、常に最新の投稿を確認するようにしてください。投稿を確認していない場合、自己責任です。またツールを使用する環境がない場合は担任に申し出てください。

実習室・インターネット使用上のルール・マナー

1. 実習室の放課後開放について

放課後、午後6時まで実習室を開放します。開放時間中に清掃(清掃時間を入り口に掲示)が入ります。その際は一度退出をお願いします。気持ちよく使えるよう、ご協力ください。

2. 実習室に、飲食物は持ち込んではいけません

パソコンは精密な電子機械です。水、粘着質の糖分、細かなゴミ、小さな金属物などを嫌います。実習室では、飲食行為も持ち込みも、厳禁です。

3. 本校のパソコンに、ゲーム(その他ソフト)をインストールしてはいけません

雑誌の付録のCD-ROMを持ち込んだり、インターネットでダウンロードしたりして、ゲームなどのソフトを本校のパソコンにインストールしてはいけません。

4. USBなどの記憶媒体は必ずウイルスチェックをするようにして下さい

記憶媒体を本校で使用する場合は、監督の先生に申し出てウイルスチェックをしてもらって下さい。その後、許可します。

5. 実習ファイルを保存するための領域をIドライブに用意してあります

必要なファイルのみ保存し、常に整理を心がけてください。ゲームファイル、過度な容量のファイルの保存を禁止します。(卒業研究等、必要な場合を除く)

6. インターネットを利用して、画像、音楽などを不正使用してはいけません

画像・音楽データなどはすべて、著作権があります。さらに、人物の写真には肖像権、アイドルの写真にはパブリシティ権があります。個人的な利用の範囲を超えて、使用してはいけません。HPやブログに貼り付けることはこれらの権利の侵害で、犯罪行為です。

7. インターネットに、非常識な書き込みをしてはいけません

インターネットの世界は、限られた若者のギャグやチャレの場ではありません。善意ある人達の、世界的に開かれた場です。匿名性を利用した破廉恥な書き込みは、卑怯者の行為です。一見匿名ですが、アクセス記録は残りますから、必ず追跡されます。

以上の約束が守れない場合は、指導の対象となります。

また、悪質な場合は、停学・退学を含めた処置を検討します。

学校法人三橋学園 船橋情報ビジネス専門学校
個人情報保護に関する基本方針（プライバシーポリシー）

船橋情報ビジネス専門学校

船橋情報ビジネス専門学校は、教育機関としての社会的責任を果たすために、以下の個人情報保護方針(プライバシーポリシー)を定め、教職員およびその他の関係者に周知徹底し、これを実行します。

1. 個人情報の取り扱いについては、教育上または業務上必要な範囲内において利用目的をできるだけ特定した上で、権限を与えられた者のみに許可します。
2. 個人情報に対する不正アクセス、紛失、破壊、改ざんおよび漏えい等を防止するために、適切な安全対策を講じます。
3. 取得した個人情報は、以下の目的に利用します。
 - (1) 本校の授業、検定試験、行事等の通知・連絡・管理を行うため
 - (2) 就職指導および就職活動支援を行うため
 - (3) 入学相談および募集活動を行うため
 - (4) 入学選考試験業務を行うため
 - (5) 各種証明書等の発行業務を行うため
 - (6) 上記のほか、教育上必要と判断される業務や活動を行うため
4. 本校は以下のような場合において、必要とされる範囲内で個人情報を関係者または第三者に提供もしくは公開することがあります。
 - (1) 在学生の保護者に対し、本人の学業成績、出欠席状況、資格取得状況等の提供
 - (2) 在学生もしくは卒業生の出身校に対し、本人の出欠席状況、資格取得状況、就職状況等の提供
 - (3) 学内での定期試験合格者、資格取得者、就職内定者情報等の公開
 - (4) 就職指導室における、在学生もしくは卒業生の就職先、就職活動記録等の公開
 - (5) 本校への入学希望者に対する、在学生もしくは卒業生の就職または就職内定先情報および、学校案内や本校ホームページに記載されている情報等の提供
 - (6) 上記のほか、本校の教育上もしくは業務上必要と判断される場合
5. 上記以外の利用目的で個人情報を収集する場合は、別途本人および保護者に通知します。
6. 以上のように、本校による関係者および第三者への個人情報の提供は、教育上もしくは業務上必要であると判断した上で行っておりますが、希望しない場合は所定の手続による請求をすることで停止できます。

個人情報の開示、訂正、利用停止の請求および取り扱いに対する問い合わせは下記までお願いします。

校長 鳥居 高之
047-425-1051
takatorii@mitsuhashi.ac.jp

科目	セキュリティとネットワーク	分類	専門、必修科目
担当	大下 翼		
テキスト (出版社)	よくわかるマスター基本情報技術者試験対策テキスト(FOM出版)		
参考資料	オリジナル教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	30%	0%	0%	20%	20%	30%	100%		

1. 授業の概要

ITパスポート試験、基本情報技術者試験合格に必要なかつ十分な「セキュリティとネットワーク」の知識を身に付ける。

2. 授業の目標(検定取得など)

「セキュリティとネットワーク」の基礎知識を押さえ、ITパスポート試験に合格する。
「セキュリティとネットワーク」の知識を応用し、基本情報技術者試験の科目A修了認定試験の合格を目指す。

3. 注意点・要望

内容が非常に多岐にわたるため、予習と復習をしっかりと行うこと。
インプットの時間がほとんどとなるため、検定対策の時間でアウトプットをしっかりとすること。

4. 関連科目

国家試験関連科目全般

週	テーマ	内容
1	授業の概要説明、OSI参照モデル、ネットワーク機器、プロトコル	授業の目標並びに進め方の説明、OSI参照モデル、ネットワーク機器と動作レイヤ、CSMA/CD方式、レイヤ3、4、7の各プロトコル、ポート番号、MACアドレス
2	IPアドレス NAPT、DNS、電子メール、Web	IPアドレスクラス、グローバルIPアドレス、プライベートIPアドレス、サブネット計算 NAPT、DNS、電子メール、MIME、Web
3	ネットワークコマンド、SDN 情報セキュリティの目的、マルウェア	arpコマンド、pingコマンド、SDN、機密性、完全性、可用性、真正性、責任追跡性 信頼性、セキュリティバイデザイン、不正のトライアングル、マルウェア
4	ネットワークコマンド、SDN 情報セキュリティの目的と考え方	arpコマンド、pingコマンド、SDN 機密性、完全性、可用性、真正性、責任追跡性、信頼性、パスワードクラッキング
5	なりすましによる攻撃 不正なスクリプトによる攻撃、リスク管理	キャッシュポイズニング攻撃、ドライブバイダウンロード、ポートスキャンとポートスキャナ SQLインジェクション、ディレクトリトラバーサル、リスクアセスメント、リスク管理
6	CSIRT、ペネトレーションテスト セキュリティ機器、セキュリティ対策	CSIRT、ペネトレーションテスト、パケットフィルタ、WAF、DMZ、パッチ デジタルフォレンジックス、マルウェア対策ソフト
7	メール・無線LANのセキュリティ 生体認証、多要素認証	メールセキュリティ、無線LANのセキュリティ、多要素認証、生体認証、CAPTCHA
8	暗号、ハッシュ関数、デジタル署名	共通鍵暗号、公開鍵暗号、認証局、ハッシュ関数
9	ITパスポート試験対策(1)	ITパスポート試験合格に向けた講義(ネットワーク方式)
10	ITパスポート試験対策(2)	ITパスポート試験合格に向けた講義(通信プロトコル)
11	ITパスポート試験対策(3)	ITパスポート試験合格に向けた講義(情報セキュリティ)
12	ITパスポート試験対策(4)	ITパスポート試験合格に向けた講義(情報セキュリティ管理)
13	ITパスポート試験対策(5)	ITパスポート試験合格に向けた講義(情報セキュリティ対策・情報セキュリティ実装技術)
14	ITパスポート試験対策(6)	ITパスポート試験合格に向けた問題演習
15	ITパスポート試験対策(7)	ITパスポート試験合格に向けた問題演習
16	前期試験期間	効果測定

備考

システムエンジニアとしての業務経験のある教員がその経験を活かして講義する

科目	セキュリティ	分類	専門、必修科目
担当	大下 翼		
テキスト (出版社)	よくわかるマスター基本情報技術者試験対策テキスト(FOM出版)		
参考資料	オリジナル教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	0%	40%	20%	40%	100%		

1. 授業の概要

前期で身に付けたセキュリティの知識を応用して、基本情報技術者試験の科目B問題対策を中心に行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

基本情報技術者試験に合格する。

3. 注意点・要望

基本情報技術者試験の合格だけを目的とせず、その他の国家試験でも出題される科目だということを意識する。

4. 関連科目

国家試験関連科目全般

週	テーマ	内容
1	科目B試験・後期授業説明 前期講義内容の復習	科目B試験セキュリティの説明、後期授業の進め方の説明 前期講義内容のセキュリティ部分を中心に復習
2	基本情報 科目B試験対策(1)	基本情報技術者試験等の過去問題を使用した科目B問題対策
3	基本情報 科目B試験対策(2)	基本情報技術者試験等の過去問題を使用した科目B問題対策
4	基本情報 科目B試験対策(3)	基本情報技術者試験等の過去問題を使用した科目B問題対策
5	基本情報 科目B試験対策(4)	基本情報技術者試験等の過去問題を使用した科目B問題対策
6	基本情報 科目B試験対策(5)	基本情報技術者試験等の過去問題を使用した科目B問題対策
7	基本情報 科目B試験対策(6)	基本情報技術者試験等の過去問題を使用した科目B問題対策
8	基本情報 科目B試験対策(7)	基本情報技術者試験等の過去問題を使用した科目B問題対策
9	基本情報 科目B試験対策(8)	基本情報技術者試験等の過去問題を使用した科目B問題対策
10	基本情報 科目B試験対策(9)	基本情報技術者試験等の過去問題を使用した科目B問題対策
11	基本情報 科目B試験対策(10)	基本情報技術者試験等の過去問題を使用した科目B問題対策
12	基本情報 科目B試験対策(11)	基本情報技術者試験等の過去問題を使用した科目B問題対策
13	基本情報 科目B試験対策(12)	基本情報技術者試験等の過去問題を使用した科目B問題対策
14	基本情報 科目B試験対策(13)	基本情報技術者試験等の過去問題を使用した科目B問題対策
15	基本情報 科目B試験対策(14)	基本情報技術者試験等の過去問題を使用した科目B問題対策
16	基本情報 科目B試験対策(15)	基本情報技術者試験等の過去問題を使用した科目B問題対策
17	後期試験期間	-

備考

システムエンジニアとしての業務経験のある教員がその経験を活かして講義する

科目	アルゴリズムとデータ構造 I	分類	専門、必修科目
担当	菊池 浩之		
テキスト (出版社)	基本情報技術者 [科目B] アルゴリズムとプログラミング トレーニング問題集 第2版(大原出版) 基本情報技術者 科目B 問題集(インフォテック・サーブ)		
参考資料	オリジナル教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	50%	0%	0%	0%	20%	30%	100%		

1. 授業の概要

論理的思考力の向上を目的とし、基本情報技術者試験の合格を目指す。
Java言語演習と組み合わせ、講義と演習のハイブリット学習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

基本情報技術者試験の合格。論理的思考力を養い、応用情報技術者試験やシステム開発のための土台づくりを行う。

3. 注意点・要望

アルゴリズムの修得は地道な積み上げであり、個人差があるため、序盤は基礎的な学習を重点的に行う。
最先端のアルゴリズムも基礎的な構造の組み合わせである。簡単な問題でも楽しみつつ、高い意識を持って取り組むこと。

4. 関連科目

Java言語演習 I・II、アルゴリズムとデータ構造 II

週	テーマ	内容
1	アルゴリズム入門	アルゴリズムとは、フローチャートとは、出力のフローチャート
2	変数	変数とは、変数の宣言と代入、変数の四則演算、変数の使い回し
3	条件式	条件式とは、比較演算、論理演算、各種演算の組み合わせ
4	選択処理	単岐選択処理、双岐選択処理、入れ子の選択処理、複数条件の選択処理
5	ループ処理	while型ループ、for型ループ
6	疑似言語	疑似言語とは、疑似言語の順次処理・選択処理・ループ処理
7	データ構造の概要	リスト、スタック、キュー、木構造
8	代表的なアルゴリズムの概要	代表的なソートアルゴリズムの概要、代表的な探索アルゴリズムの概要
9	ループ処理(疑似言語)	for型・while型ループ中の選択処理、break文、無限ループ、while型・for型ループ同士の組合せ
10	配列	配列とは、配列の四則演算、変数を使用する添え字、ループ中の配列の使用
11	2重ループ	for型2重ループ、while型2重ループ、2重ループ中のbreak文、while型・for型ループを組合せた2重ループ
12	2次元配列	2次元配列の添え字・代入・出力・四則演算、2重ループ中の2次元配列
13	関数	関数とは、引数と戻り値、ループ中の関数、関数による階層、再帰関数、大域変数
14	構造体	メンバとは、メンバ参照、ループ中の構造体
15	総合問題演習	これまで習った知識を使った総合問題演習
16	前期試験期間	効果測定

備考

-

科目	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	分類	専門、必修科目
担当	菊池 浩之		
テキスト (出版社)	基本情報技術者 [科目B] アルゴリズムとプログラミングトレーニング問題集 第2版(大原出版) 基本情報技術者 科目B 問題集(インフォテック・サーブ)		
参考資料	オリジナル教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	3
	50%	0%	0%	0%	20%	30%	100%		

1. 授業の概要

論理的思考力の向上を目的とし、基本情報技術者試験の合格を目指す。
Java言語演習と組み合わせ、講義と演習のハイブリット学習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

基本情報技術者試験の合格。論理的思考力を養い、応用情報技術者試験やシステム開発のための土台づくりを行う。

3. 注意点・要望

アルゴリズムの修得は地道な積み上げであり、個人差があるため、序盤は基礎的な学習を重点的に行う。
最先端のアルゴリズムも基礎的な構造の組み合わせである。簡単な問題でも楽しみつつ、高い意識を持って取り組むこと。

4. 関連科目

Java言語演習Ⅰ・Ⅱ、アルゴリズムとデータ構造Ⅰ

週	テーマ	内容
1	基本情報技術者試験対策(1)	問題演習を通じ、問題の読み方、解答テクニックを身に付ける
2	基本情報技術者試験対策(2)	問題演習を通じ、問題の読み方、解答テクニックを身に付ける
3	基本情報技術者試験対策(3)	問題演習を通じ、問題の読み方、解答テクニックを身に付ける
4	基本情報技術者試験対策(4)	問題演習を通じ、問題の読み方、解答テクニックを身に付ける
5	基本情報技術者試験対策(5)	問題演習を通じ、問題の読み方、解答テクニックを身に付ける
6	基本情報技術者試験対策(6)	問題演習を通じ、問題の読み方、解答テクニックを身に付ける
7	基本情報技術者試験対策(7)	問題演習を通じ、問題の読み方、解答テクニックを身に付ける
8	基本情報技術者試験対策(8)	問題演習を通じ、問題の読み方、解答テクニックを身に付ける
9	基本情報技術者試験対策(9)	問題演習を通じ、問題の読み方、解答テクニックを身に付ける
10	基本情報技術者試験対策(10)	問題演習を通じ、問題の読み方、解答テクニックを身に付ける
11	基本情報技術者試験対策(11)	問題演習を通じ、問題の読み方、解答テクニックを身に付ける
12	ソートの実装アルゴリズム	選択ソート、挿入ソート、バブルソート、ヒープソート、マージソート、クイックソート
13	探索の実装アルゴリズム	線形探索法、2分探索法、ハッシュ表探索法
14	リスト構造の実装アルゴリズム	線形リスト、双方向リスト、環状リスト、スタック、キュー
15	木構造の実装アルゴリズム	幅優先探索、深さ優先探索、2分木
16	総合問題演習	これまで習った知識を使った総合問題演習
17	後期試験期間	効果測定

備考

-

科目	ハードウェア	分類	専門、必修科目
担当	花田 秀宣		
テキスト (出版社)	よくわかるマスター基本情報技術者試験対策テキスト(FOM出版)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	30%	0%	0%	20%	20%	30%	100%		

1. 授業の概要

ITパスポート試験、基本情報技術者試験合格に必要なかつ十分な「ハードウェア」の知識を身に付ける。

2. 授業の目標(検定取得など)

「ハードウェア」の基礎知識を押さえ、ITパスポート試験に合格する。
「ハードウェア」の知識を応用し、基本情報技術者試験の科目A免除試験の合格を目指す。

3. 注意点・要望

内容が非常に多岐にわたるため、予習と復習をしっかりと行うこと。
インプットの時間がほとんどとなるため、検定対策や放課後の時間でアウトプットをしっかりとすること。

4. 関連科目

検定対策Ⅰ・Ⅱ、国家試験対策

週	テーマ	内容
1	プロセッサ(1)	コンピュータの種類と構成、CPUの構成、CPUの動作の仕組み
2	プロセッサ(2)	アドレス指定方式、割込み、クロック周波数、CPIとMIPS、命令ミックス
3	プロセッサ(3)	CPUのアーキテクチャと高速化技術、マルチプロセッサシステムの概要
4	記憶装置(1)	メモリの種類と特徴、記憶階層、メモリの高速化技術と実効アクセス時間
5	記憶装置(2) バス	補助記憶装置の種類 バスの種類と特徴、バスのアーキテクチャ
6	入出力インタフェース 入出力装置	インタフェースの種類、デバイスドライバ 入力装置の種類、出力装置の種類
7	システムの構成(1)	システムの処理形態、集中処理と分散処理、システムの構成 クライアントサーバシステム
8	システムの構成(2)	RAIDの仕組み、システムの評価指標、システムの性能と評価 システムの信頼性
9	基本情報技術者試験 科目A免除対策	過去問題を使用した試験対策
10	ITパスポート試験対策(1)	ITパスポート試験合格に向けた講義(IoTデバイス、アクチュエータ)
11	ITパスポート試験対策(2)	ITパスポート試験合格に向けた講義(仮想化と仮想マシン、仮想化の構成)
12	ITパスポート試験対策(3)	ITパスポート試験合格に向けた講義(高信頼性設計、システムの経済性)
13	ITパスポート試験対策(4)	ITパスポート試験合格に向けた問題演習
14	ITパスポート試験対策(5)	ITパスポート試験合格に向けた問題演習
15	ITパスポート試験対策(6)	ITパスポート試験合格に向けた問題演習
16	前期試験期間	効果測定

備考

システムエンジニア、企業のシステム管理としての経験と長年情報処理試験対策に携わってきた経験を活かして講義する

科目	ソフトウェア	分類	専門、必修科目
担当	花田 秀宣		
テキスト (出版社)	よくわかるマスター基本情報技術者試験対策テキスト(FOM出版)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	30%	0%	0%	20%	20%	30%	100%		

1. 授業の概要

ITパスポート試験、基本情報技術者試験合格に必要なかつ十分な「ソフトウェア」の知識を身に付ける。

2. 授業の目標(検定取得など)

「ソフトウェア」の基礎知識を押さえ、ITパスポート試験に合格する。
「ソフトウェア」の知識を応用し、基本情報技術者試験の科目A免除試験の合格を目指す。

3. 注意点・要望

内容が非常に多岐にわたるため、予習と復習をしっかりと行うこと。
インプットの時間がほとんどとなるため、検定対策の時間でアウトプットをしっかりとすること。

4. 関連科目

検定対策Ⅰ・Ⅱ、国家試験対策

週	テーマ	内容
1	オペレーティングシステム(1)	ソフトウェアの分類、OSの目的と構成・種類、OSの機能、ジョブ管理
2	オペレーティングシステム(2)	タスク管理、記憶管理
3	オペレーティングシステム(3)	ユーザ管理、ネットワーク管理、言語プロセッサ
4	ミドルウェア・開発支援ツール	ミドルウェアの種類、ライブラリ、テストツール・デバッグツール
5	ファイル管理(1)	ファイルシステムの種類と特徴、アクセス手法とファイル編成、ディレクトリ管理
6	ファイル管理(2) OSS(1)	ファイル共有とバックアップ OSSの種類と特徴
7	OSS(2) ヒューマンインタフェース	ライセンスの種類と特徴、OSSの利用・活用と考慮点 ヒューマンインタフェース技術と要件、インタフェース設計
8	マルチメディア	マルチメディア技術とその応用技術
9	基本情報技術者試験 科目A免除対策	過去問題を使用した試験対策
10	ITパスポート試験対策(1)	ITパスポート試験合格に向けた講義(ウィザード、仮想メモリとハイバネーション、プロファイル)
11	ITパスポート試験対策(2)	ITパスポート試験合格に向けた講義(オフィスツール、プラグイン、クリップボード、OSSの種類)
12	ITパスポート試験対策(3)	ITパスポート試験合格に向けた講義(ユニバーサルデザイン、情報の圧縮と伸張)
13	ITパスポート試験対策(4)	ITパスポート試験合格に向けた問題演習
14	ITパスポート試験対策(5)	ITパスポート試験合格に向けた問題演習
15	前期試験期間	効果測定

備考

システムエンジニア、企業のシステム管理としての経験と長年情報処理試験対策に携わってきた経験を活かして講義する

科目	システム設計	分類	専門、必修科目
担当	菊池 浩之		
テキスト (出版社)	よくわかるマスター基本情報技術者試験対策テキスト(FOM出版)		
参考資料	配布プリント		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	50%	0%	20%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

- (1)システムのライフサイクルをメインに学習する。
(2)基本情報技術者試験のシステム開発に関する範囲を学習する。

2. 授業の目標(検定取得など)

基本情報技術者試験の合格。

3. 注意点・要望

基本情報技術者試験の合格を最終目標とせず、IT現場で必須となるシステム開発に関する知識を身に付ける。

4. 関連科目

国家試験関連科目全般

週	テーマ	内容
1	授業の概要(全体と評価方法)説明 システム開発の全体像を説明	授業の概要説明(講義の全体スケジュールと評価方法、目指すべく目標) システム開発の流れ
2	システム要件定義 システム設計(1)	システム要件定義での機能要件 システム設計全体の流れ
3	システム設計(2)	システム方式設計(外部設計)、ソフトウェア要件定義、方式設計、詳細設計(外部設計、内部設計、プログラム設計)
4	システム設計(3) システム設計手法(1)	システム側の設計、機能分割/階層構造とレビュー手順 モジュール分割、モジュールの独立性の評価
5	システム設計手法(2) オブジェクト指向	構造化設計とオブジェクト指向設計 UML概要(情報隠蔽、カプセル化クラス図、ユースケース、シーケンス図)
6	システム開発、テスト工程 システム導入	ソフトウェアユニットテスト、その他テスト内容全般 システムの受け入れ
7	運用保守、ソフトウェア開発管理手法 と構成管理	ソフトウェアの開発プロセス、モデル 構成管理と変更管理
8	基本情報技術者 科目A免除試験 向け要点对策	基本情報技術者 科目A免除試験に対する直前講座
9	クラス図とシーケンス図(1)	クラス図、シーケンス図の作成方法
10	クラス図とシーケンス図(2)	クラス図、シーケンス図の作成
11	クラス図とシーケンス図(3)	クラス図、シーケンス図を利用したドキュメンテーション
12	UML実践(1)	クラス図を利用したプレゼンテーション
13	UML実践(2)	クラス図を利用したプレゼンテーション
14	UML実践(3)	クラス図を利用したプレゼンテーション
15	前期試験期間	効果測定

備考

-

科目	ストラテジとマネジメント	分類	専門、必修科目
担当	菊池 浩之		
テキスト (出版社)	よくわかるマスター基本情報技術者試験対策テキスト(FOM出版)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	50%	0%	0%	20%	10%	20%	100%		

1. 授業の概要

- (1)ストラテジやマネジメントを意識し、体系的なIT業界の知識をメインに学習する。
(2)基本情報技術者試験のシステム開発に関する範囲を学習する。

2. 授業の目標(検定取得など)

- 「ストラテジ・マネジメント」の基礎知識を押さえ、ITパスポート試験に合格する。
「ストラテジ・マネジメント」の知識を応用し、基本情報技術者試験の科目A免除試験の合格を目指す。

3. 注意点・要望

- 分野の各項目が非常に多岐にわたるため、予習と復習をしっかりと行うこと。
講義時間は終始、要点説明が主となるため、関連科目の時間での問題演習を通して知識を自分のものとして押さえること。

4. 関連科目

国家試験対策

週	テーマ	内容
1	プロジェクトマネジメント(1)	プロジェクトマネジメントの概要、WBS、工数及び人数の見積もり、アローダイアグラム
2	プロジェクトマネジメント(2)	クラッシング、ファンクションポイント法、4つのリスク対応戦略、品質マネジメントに使われる各種図の特徴
3	サービスマネジメント	サービスマネジメントの概要、SLA、一斉移行方式、インシデント管理、バックアップ、サービスデスク、サージ
4	システム監査、システム戦略(1)	監査の目的及び監査人の役割、監査人の独立性、IT統制、システム管理基準、EA、BPM、BPR、BPO、クラウドサービス
5	システム戦略(2)	データ活用、デジタルディバイド、システム化計画の注意点、企画プロセス、要件定義、機能要件と非機能要件
6	経営戦略マネジメント	経営戦略手法、マーケティング、ビジネス戦略、経営管理システム、技術戦略マネジメント
7	ビジネスインダストリ	eビジネス、ビジネスシステム、エンジニアシステム
8	企業活動、法務	経営・組織論、OR・IE、会計・財務、知的財産権、情報セキュリティ関連、労働・取引関連法規
9	ITパスポート試験対策(1)	ITパスポート試験と基本情報技術者 科目A免除試験の差分の講義、問題演習
10	ITパスポート試験対策(2)	ITパスポート試験と基本情報技術者 科目A免除試験の差分の講義、問題演習
11	ITパスポート試験対策(3)	ITパスポート試験と基本情報技術者 科目A免除試験の差分の講義、問題演習
12	ITパスポート試験対策(4)	ITパスポート試験と基本情報技術者 科目A免除試験の差分の講義、問題演習
13	ITパスポート試験対策(5)	ITパスポート試験と基本情報技術者 科目A免除試験の差分の講義、問題演習
14	ITパスポート試験対策(6)	ITパスポート試験と基本情報技術者 科目A免除試験の差分の講義、問題演習
15	前期試験期間	効果測定

備考

-

科目	データベース	分類	専門、必修科目
担当	菊池 浩之		
テキスト (出版社)	よくわかるマスター基本情報技術者試験対策テキスト(FOM出版)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	40%	0%	0%	0%	20%	40%	100%		

1. 授業の概要

データベースに関する基礎知識を学ぶ。

2. 授業の目標(検定取得など)

ITパスポート試験、基本情報技術者科目A免除試験の合格。

3. 注意点・要望

予習、復習をしっかりと行い、記憶の定着を促すこと。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	データベースの利点と設計手法、データモデル作成、スキーマ	データベースとは、設計(概念・論理・物理)手順、各種データモデルの作成、データベースの定義(DDL)
2	排他制御と障害回復処理、データベースの種類	トランザクション処理、排他制御、障害回復処理、集中・分散データベース、データベースの応用、コミット
3	関係データベースの基本演算、テーブル定義・検索、副問合せ	基本演算の種類、SQL、テーブル定義、テーブル検索、副問合せ、単一行副問合せ、複数行副問合せ
4	ビュー定義、その他のSQL	ビュー定義、列の追加・削除・変更・データ型の変更、データの挿入・削除・更新
5	正規化対策	正規化、第1正規化、第2正規化、第3正規化
6	基本情報技術者試験科目A免除対策(1)	過去問題を使用した問題対策
7	基本情報技術者試験科目A免除対策(2)	過去問題を使用した問題対策
8	基本情報技術者試験科目A免除対策(3)	過去問題を使用した問題対策
9	SQL対策(1)	テーブル定義、テーブル検索
10	SQL対策(2)	副問合せ、単一行副問合せ、複数行副問合せ
11	SQL対策(3)	総合演習
12	ITパスポート試験対策(1)	チェックシートを使用した試験問題対策
13	ITパスポート試験対策(2)	チェックシートを使用した試験問題対策
14	ITパスポート試験対策(3)	チェックシートを使用した試験問題対策
15	前期試験期間	効果測定

備考

-

科目	Oracleデータベース演習	分類	専門、必修科目
担当	大下 翼		
テキスト (出版社)	オリジナル教材		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	30%	0%	30%	0%	0%	40%	100%		

1. 授業の概要

基礎的なデータベースの設計技術、実践的なSQLによる操作を学ぶ。

2. 授業の目標(検定取得など)

データベースの設計および、設計に基づきデータベースを構築、操作できるようになる。

3. 注意点・要望

データベースの構築、活用ができるエンジニアを目指す。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	SQL対策応用(1)	データ分析応用で作成したテーブル、テストデータに対してのSQL操作
2	SQL対策応用(2)	データ分析応用で作成したテーブル、テストデータに対してのSQL操作
3	SQL対策応用(3)	データ分析応用で作成したテーブル、テストデータに対してのSQL操作
4	SQL対策応用(4)	データ分析応用で作成したテーブル、テストデータに対してのSQL操作
5	SQL対策応用(5)	データ分析応用で作成したテーブル、テストデータに対してのSQL操作
6	SQL対策応用(6)	データ分析応用で作成したテーブル、テストデータに対してのSQL操作
7	SQL対策応用(7)	データ分析応用で作成したテーブル、テストデータに対してのSQL操作
8	SQL対策応用(8)	データ分析応用で作成したテーブル、テストデータに対してのSQL操作
9	SQL対策応用(9)	データ分析応用で作成したテーブル、テストデータに対してのSQL操作
10	SQL対策応用(10)	データ分析応用で作成したテーブル、テストデータに対してのSQL操作
11	SQL対策応用(11)	データ分析応用で作成したテーブル、テストデータに対してのSQL操作
12	SQL対策応用(12)	データ分析応用で作成したテーブル、テストデータに対してのSQL操作
13	データベース設計(1)	正規化によるデータベースの設計を行う
14	データベース設計(2)	正規化によるデータベースの設計を行う
15	データベース設計(3)	正規化によるデータベースの設計を行う
16	後期試験期間	効果測定

備考

システムエンジニアとしての業務経験のある教員がその経験を活かして講義する

科目	国家試験対策	分類	専門、必修科目
担当	菊池 浩之		
テキスト (出版社)	よくわかるマスター基本情報技術者試験対策テキスト(FOM出版)		
参考資料	オリジナル教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	0%	30%	20%	50%	100%		

1. 授業の概要

基本情報技術者試験、応用情報技術者試験に合格するための学習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

基本情報技術者試験に合格する。応用情報技術者試験の午前の過去問の正答率を80%まで上げる。

3. 注意点・要望

特に応用情報技術者試験の午前問題の学習は、とにかく根気が必要となる。すぐに点数が伸びるわけではないため地道な努力を行うこと。

4. 関連科目

検定対策Ⅰ・Ⅱ

週	テーマ	内容
1	基本情報技術者試験対策(1)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
2	基本情報技術者試験対策(2)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
3	基本情報技術者試験対策(3)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
4	基本情報技術者試験対策(4)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
5	基本情報技術者試験対策(5)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
6	基本情報技術者試験対策(6)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
7	基本情報技術者試験対策(7)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
8	基本情報技術者試験対策(8)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
9	応用情報技術者試験対策(1)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
10	応用情報技術者試験対策(2)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
11	応用情報技術者試験対策(3)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
12	応用情報技術者試験対策(4)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
13	応用情報技術者試験対策(5)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
14	応用情報技術者試験対策(6)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
15	応用情報技術者試験対策(7)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
16	応用情報技術者試験対策(8)	関連科目の講義内容の復習、問題演習

備考

-

科目	Office演習	分類	専門、必修科目
担当	大下 翼		
テキスト (出版社)	Microsoft Office Specialist Microsoft Excel 2019 対策テキスト&問題集 (よくわかるマスター) (FOM出版)		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	3
	0%	0%	40%	0%	20%	40%	100%		

1. 授業の概要

Microsoft Office Specialist (Excel)に出題される内容を網羅的に学ぶ。

2. 授業の目標(検定取得など)

Microsoft Office Specialist (Excel)の合格。

3. 注意点・要望

Excelを利用した資料作成、データの操作ができるエンジニアを目指す。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	授業の概要説明、MOS(Excel)試験概要、操作方法	Excelの操作方法、MOSの試験概要の説明
2	MOS(Excel)対策講義(1) (ワークシート、ブックに関する操作)	ブック、ワークシートの作成・コピー・削除 ハイパーリンク、印刷設定
3	MOS(Excel)対策講義(2) (セルに関する操作)	セル内でのデータ挿入、フィルターや条件付き書式
4	MOS(Excel)対策講義(3) (テーブルに関する操作)	テーブル作成とデータの操作方法 グラフ操作、画像の挿入等
5	MOS(Excel)対策講義(4) (数式、関数)	数式と関数について (必要関数全般)
6	MOS(Excel)対策講義(5) (グラフの管理)	グラフについて グラフ変更、書式変更
7	MOS(Excel)模擬試験プログラム(1)	模擬試験プログラムの使い方説明
8	MOS(Excel)模擬試験プログラム(2)	模擬試験プログラムの実施
9	MOS(Excel)模擬試験プログラム(3)	模擬試験プログラムの実施
10	MOS(Excel)模擬試験プログラム(4)	模擬試験プログラムの実施
11	MOS(Excel)模擬試験プログラム(5)	模擬試験プログラムの実施
12	MOS(Excel)模擬試験プログラム(6)	模擬試験プログラムの実施
13	MOS(Excel)模擬試験プログラム(7)	模擬試験プログラムの実施
14	MOS(Excel)模擬試験プログラム(8)	模擬試験プログラムの実施
15	MOS(Excel)模擬試験プログラム(9)	模擬試験プログラムの実施
16	Office講義	実務で使えるExcel(マクロ、VBA)やWordについて
17	後期試験期間	-

備考

システムエンジニアとしての業務経験のある教員がMOSの資格取得とともに実務で使えるExcelなどの知識を講義する

科目	応用セキュリティ	分類	専門、必修科目
担当	若井 誠文		
テキスト (出版社)	プリント教材		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

応用情報技術者試験の情報セキュリティ分野を念頭に置く。システムを安全に使用してもらうための情報セキュリティの基礎知識と、エンジニアの実業務を踏まえた記述式試験の解答テクニックを身に付ける。

2. 授業の目標(検定取得など)

応用情報技術者試験の情報セキュリティ分野の問題の解答に必要な知識とスキルを身に付ける。

3. 注意点・要望

国家試験の記述式問題は、模範解答をそのまま覚えても本番では通用しない。何故その解答になるのかを自分の頭で考えて、解答を導き出すように努めること。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	この科目について、応用情報技術者試験概要、基本情報復習
2	ネットワークに潜む脅威(1)	情報セキュリティの3要素、セキュリティポリシー
3	ネットワークに潜む脅威(2)	個人情報保護法、プライバシーマーク、ISMS
4	ユーザ認証とアクセス管理(1)	パスワード認証、ワンタイムパスワード、辞書攻撃、総当たり攻撃
5	ユーザ認証とアクセス管理(2)	スニффィング、ゼロデイ攻撃、クロスサイトスクリプティング、DNSキャッシュポイズニング
6	コンピュータウイルスの脅威(1)	ウイルス、ワーム、トロイの木馬、スパイウェア、バックドア
7	コンピュータウイルスの脅威(2)	ボット、ランサムウェア
8	ネットワークのセキュリティ対策(1)	ファイアウォール、WAF、フォワードプロキシ、リバースプロキシ
9	ネットワークのセキュリティ対策(2)	DMZ、ペネトレーションテスト
10	暗号化技術とデジタル署名(1)	共通鍵暗号、公開鍵暗号、デジタル署名
11	暗号化技術とデジタル署名(2)	PKI、認証局
12	午後問題(1)	応用情報技術者試験午後問題研究(1)
13	午後問題(2)	応用情報技術者試験午後問題研究(2)
14	午後問題(3)	応用情報技術者試験午後問題研究(3)
15	午後問題(4)	応用情報技術者試験午後問題研究(4)
16	後期試験期間	-

備考

ネットワークエンジニア、社内SE(インフラ)を経験した教員が、その経験に基づいた講義を行う

科目	応用ネットワーク基礎	分類	専門、必修科目
担当	若井 誠文		
テキスト (出版社)	プリント教材		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

応用情報技術者試験のネットワーク分野を念頭に置き、ITの利活用には欠かすことのできないネットワークの基礎知識と、エンジニアの実業務を踏まえた記述式試験の解答テクニックを身に付ける。

2. 授業の目標(検定取得など)

応用情報技術者試験のネットワーク分野の問題の解答に必要な知識とスキルを身に付ける。

3. 注意点・要望

国家試験の記述式問題は、模範解答をそのまま覚えても本番では通用しない。何故その解答になるのかを自分の頭で考えて、解答を導き出すように努めること。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	この科目について、応用情報技術者試験概要、基本情報復習
2	データリンク層(1)	イーサネット、MACアドレス
3	データリンク層(2)	VLAN、STP、イーサチャネル
4	ネットワーク層(1)	IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ
5	ネットワーク層(2)	NAT、NAPT
6	NWを構成する装置(1)	スイッチ、ルータ
7	NWを構成する装置(2)	ファイアウォール、プロキシサーバ、負荷分散装置
8	インターネットの技術(1)	TCP、UDP
9	インターネットの技術(2)	DNS、DHCP
10	インターネットの技術(3)	HTTP、FTP、Telnet
11	インターネットの技術(4)	SMTP、POP3、IMAP4
12	午後問題(1)	応用情報技術者試験午後問題研究(1)
13	午後問題(2)	応用情報技術者試験午後問題研究(2)
14	午後問題(3)	応用情報技術者試験午後問題研究(3)
15	午後問題(4)	応用情報技術者試験午後問題研究(4)

備考

ネットワークエンジニア、社内SE(インフラ)を経験した教員が、その経験に基づいた講義を行う

科目	応用プロジェクトマネジメント	分類	専門、必修科目
担当	野本 修平		
テキスト (出版社)	オリジナル教材		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	0%	0%	30%	0%	20%	50%	100%		

1. 授業の概要

応用情報技術者試験合格に向けて、プロジェクトマネジメントの基礎知識、基本となる考え方を学ぶ。

2. 授業の目標(検定取得など)

応用情報技術者試験の合格。

3. 注意点・要望

講義を受けた後に自学自習をしないと知識は抜けてしまいます。しっかり復習をすること。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	システム開発のV字モデル	システム開発における全体の流れを理解し、各工程での役割を意識する
2	各種開発技法	アジャイル・ウォーターホールにおけるプロジェクトマネジメントのポイントを学ぶ
3	プロジェクトマネジメントにおける考え方	組織における業務部門間の調整や、ベンダーとのやり取りにおけるケアするポイントを学ぶ
4	コストマネジメント	コストマネジメントを行う上での注意点/EVMの計算方法
5	調達マネジメント	資源調達、ベンダー調達におけるポイントを学ぶ
6	品質マネジメント	成果物品質におけるプロジェクトマネジメントの考え方を学ぶ
7	ステークホルダーマネジメント	ステークホルダーをコントロールするためのコミュニケーション技法などを学ぶ
8	コミュニケーションマネジメント	プロジェクトマネジメントにおけるコミュニケーションマネジメントを体系的に学ぶ
9	スコープマネジメント	WBSなどを題材としてプロジェクトにおけるスコープの確定方法、変更手順などを学ぶ
10	プロジェクトの終結	各知識エリアに紐づくプロジェクトの終結フェーズを学ぶ
11	統合マネジメント	PMBOKをベースに各種知識エリアの内容を踏まえた全体像を学ぶ
12	応用情報過去問題演習(1)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(1)
13	応用情報過去問題演習(2)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(2)
14	応用情報過去問題演習(3)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(3)
15	応用情報過去問題演習(4)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(4)
16	後期試験期間	-

備考

5年以上のプロジェクトマネジメントの経験を持つ教員が授業を行う

科目	応用サービスマネジメント	分類	専門、必修科目
担当	野本 修平		
テキスト (出版社)	オリジナル教材		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	0%	0%	30%	0%	20%	50%	100%		

1. 授業の概要

応用情報技術者試験合格に向けて、サービスマネジメントの基礎知識、基本となる考え方を学ぶ。

2. 授業の目標(検定取得など)

応用情報技術者試験の合格。

3. 注意点・要望

講義を受けた後に自学自習をしないと知識は抜けてしまいます。しっかり復習をすること。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	インフラストラクチャの概要	オンプレミス、クラウドにおけるシステム運用に関するインフラストラクチャの説明
2	SLA、OLAの概要	SLA、OLAの内容、軸、考え方を理解する
3	運用保守における用語説明	システム移行やリハーサルの流れ、その他関連する単語の理解
4	可用性、信頼性など	MTBF、MTTRなどの計算問題の理解
5	サービスオペレーション	ITIL準拠のサービスオペレーションの全容を理解する
6	インシデント対応(1)	サポートデスクにおけるインシデント対応
7	インシデント対応(2)	インシデント発生時のけるエスカレーション
8	インシデント対応(3)	インシデント対応時のIT技術利用
9	インシデント対応(4)	インシデントのプライオリティと切り分けの考え方
10	暫定対処と恒久対処	インシデントに対する暫定対処と恒久対処
11	問題管理	問題管理における考え方
12	変更管理	バージョン管理やインフラのシステム管理
13	サービスデザイン	クラウドを利用した形でのサービスデザイン
14	キャパシティ管理	運用保守におけるキャパシティ管理の考え方
15	文章管理と資産管理	運用保守における文章管理と資産管理
16	後期試験期間	-

備考

ITの現場でサービスマネジメントの経験を5年以上持つ教員が授業を行う

科目	応用プログラミング	分類	専門、必修科目
担当	秋山 純一		
テキスト (出版社)	オリジナル教材		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	0%	0%	0%	50%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

応用情報技術者試験のプログラミング分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を学ぶ。

2. 授業の目標(検定取得など)

応用情報技術者試験のプログラミング分野の問題に自力で取り組めるだけの知識と技術を身に付ける。

3. 注意点・要望

論理的思考力は一朝一夕では身に付かない。根気強く学習を行い、少しずつ点数を伸ばすこと。

4. 関連科目

Java言語演習Ⅰ・Ⅱ、アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・Ⅱ

週	テーマ	内容
1	過去問対策(1)	過去問演習、講義、解説
2	過去問対策(2)	過去問演習、講義、解説
3	過去問対策(3)	過去問演習、講義、解説
4	過去問対策(4)	過去問演習、講義、解説
5	過去問対策(5)	過去問演習、講義、解説
6	過去問対策(6)	過去問演習、講義、解説
7	過去問対策(7)	過去問演習、講義、解説
8	過去問対策(8)	過去問演習、講義、解説
9	過去問対策(9)	過去問演習、講義、解説
10	過去問対策(10)	過去問演習、講義、解説
11	過去問対策(11)	過去問演習、講義、解説
12	過去問対策(12)	過去問演習、講義、解説
13	過去問対策(13)	過去問演習、講義、解説
14	過去問対策(14)	過去問演習、講義、解説
15	効果測定	小テストによる効果測定

備考

-

科目	Java言語演習 I	分類	専門、必修科目
担当	秋山 純一		
テキスト (出版社)	スッキリわかるJava入門 第4版(インプレス)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	30%	0%	40%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

実際に手を動かすことにより、コンピュータの基礎的な操作方法を覚えながらJavaプログラミングの演習を行う。
既に理解したアルゴリズムの内容について、Javaではどういった書き方になるのかを学ぶ。

2. 授業の目標(検定取得など)

基本情報技術者試験科目Bを突破できる土台の修得。
開発環境の基礎的な操作の修得。Javaプログラミングの基礎と、他の言語でも通用する論理的思考力の修得。

3. 注意点・要望

積み上げ式の学習であるため、基礎を疎かにせず、一つひとつの技術を確実に修得すること。
授業に付いて行ける様にタッチタイピングを身に付け、自らの手でプログラムを組み、頭だけでなく体で技術を修得すること。

4. 関連科目

Java言語演習Ⅱ、アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・Ⅱ

週	テーマ	内容
1	Java言語の概要と開発環境構築 プログラムの基本的な書き方	Java言語の概要の理解、統合開発環境(IDE)の使い方 プログラムの全体構成、ブロックとインデント、コメント文、printlnメソッドとprintメソッド
2	変数とデータ型	データ型の種類と役割、変数、変数の宣言
3	キーボード入力	キーボードから入力した値を扱う
4	式と演算子	四則演算やインクリメント、演算子の優先順位
5	選択処理(1)	if文、if-else文を使った選択処理
6	選択処理(2)	if-elseif-else文を使った選択処理
7	ループ処理(1)	while型ループ、for型ループ
8	ループ処理(2)	for型・while型ループ中の選択処理、break文、無限ループ、while型・for型ループ同士の組合せ
9	配列	配列とは、配列の四則演算、変数を使用する添え字、ループ中の配列の使用
10	2重ループ	for型2重ループ、while型2重ループ、2重ループ中のbreak文、while型・for型ループを組合せた2重ループ
11	2次元配列	2次元配列の要素番号・代入・出力・四則演算、2重ループ中の2次元配列
12	メソッド(1)	メソッドの構造と作成方法、引数・戻り値の理解、呼び出し方法(1)
13	メソッド(2)	メソッドの構造と作成方法、引数・戻り値の理解、呼び出し方法(2)
14	オブジェクト指向(1)	オブジェクト指向とは、クラスの実装
15	オブジェクト指向(2)	データを処理するメソッド、フィールドおよびメソッド
16	前期試験期間	効果測定

備考

-

科目	Java言語演習Ⅱ	分類	専門、必修科目
担当	秋山 純一		
テキスト (出版社)	スッキリわかるJava入門 第4版(インプレス)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	20%	0%	30%	0%	20%	30%	100%		

1. 授業の概要

基本情報技術者試験科目Bの擬似言語を使用してJavaプログラミングを行い、アルゴリズムを根本から理解する。
Java言語の重要概念である「オブジェクト指向」を利用した、基礎的なプログラミング演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

基本情報技術者試験に合格する。
Javaプログラミングを通じて、オブジェクト指向の基礎を身に着ける。

3. 注意点・要望

積み上げ式の学習であるため、基礎を疎かにせず、一つひとつの技術を確実に修得すること。
授業に付いて行ける様にタッチタイピングを身に着け、自らの手でプログラムを組み、頭だけでなく体で技術を修得すること。

4. 関連科目

Java言語演習Ⅰ、アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・Ⅱ

週	テーマ	内容
1	前期復習 オブジェクト指向	演習問題により前期の内容を復習 オブジェクト指向の課題作成
2	コンストラクタ	コンストラクタとは、コンストラクタの役割
3	乱数	擬似乱数について、Randomメソッド、重複しない乱数生成の実装
4	デバッグ	ブレークポイントの設定、ステップインの方法、値の確認
5	ソートプログラミング(1)	選択法の確認と実装
6	ソートプログラミング(2)	交換法の確認と実装
7	ソートプログラミング(3)	挿入法の確認と実装
8	カプセル化(1)	オブジェクト指向とは、クラスの実装
9	カプセル化(2)	データを処理するメソッド、フィールドおよびメソッド
10	クラス型の配列	クラス型配列のメリット、実装方法
11	継承	継承について、継承を利用するケース、実装方法
12	継承とコンストラクタ	継承したクラスのコンストラクタの注意点、親クラスのコンストラクタの呼び出し
13	オーバーロード	オーバーロードの考え方、実装方法
14	オーバーライド	オーバーライドの考え方、実装方法、継承やオーバーライドの禁止、親インスタンス部へのアクセス
15	抽象クラス	抽象クラスが必要とするようになるまでの考え方、実装方法、オーバーライドの強制について、インタフェース
16	後期試験期間	効果測定

備考

-

科目	検定対策 I	分類	専門、必修科目
担当	菊池 浩之		
テキスト (出版社)	よくわかるマスター基本情報技術者試験対策テキスト(FOM出版) よくわかるマスターITパスポート試験対策テキスト&過去問題集(FOM出版)		
参考資料	オリジナル教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	0%	50%	10%	40%	100%		

1. 授業の概要

ITパスポート試験、基本情報技術者試験 科目A免除試験に合格するための学習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

ITパスポート試験、基本情報技術者試験 科目A免除試験に合格する。

3. 注意点・要望

各試験対策を並行して学習するため、スケジュール管理を徹底すること。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	基本情報技術者試験 科目A免除試験対策(1)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
2	基本情報技術者試験 科目A免除試験対策(2)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
3	基本情報技術者試験 科目A免除試験対策(3)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
4	基本情報技術者試験 科目A免除試験対策(4)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
5	基本情報技術者試験 科目A免除試験対策(5)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
6	基本情報技術者試験 科目A免除試験対策(6)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
7	基本情報技術者試験 科目A免除試験対策(7)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
8	基本情報技術者試験 科目A免除試験対策(8)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
9	ITパスポート試験対策(1)	関連科目の講義内容の復習、過去問演習
10	ITパスポート試験対策(2)	関連科目の講義内容の復習、過去問演習
11	ITパスポート試験対策(3)	関連科目の講義内容の復習、過去問演習
12	ITパスポート試験対策(4)	関連科目の講義内容の復習、過去問演習
13	ITパスポート試験対策(5)	関連科目の講義内容の復習、過去問演習
14	ITパスポート試験対策(6)	関連科目の講義内容の復習、過去問演習
15	ITパスポート試験対策(7)	関連科目の講義内容の復習、過去問演習
16	ITパスポート試験対策(8)	関連科目の講義内容の復習、過去問演習

備考

-

科目	検定対策Ⅱ	分類	専門、必修科目
担当	菊池 浩之		
テキスト (出版社)	よくわかるマスター基本情報技術者試験対策テキスト(FOM出版)		
参考資料	オリジナル教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	0%	30%	30%	40%	100%		

1. 授業の概要

基本情報技術者試験、ジョブパス、漢字検定、MOS Excelに合格するための学習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

基本情報技術者試験、ジョブパス、漢字検定、MOS Excelに合格する。

3. 注意点・要望

各試験対策を並行して学習するため、スケジュール管理を徹底すること。

4. 関連科目

国家試験対策

週	テーマ	内容
1	基本情報技術者試験対策(1)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
2	基本情報技術者試験対策(2)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
3	基本情報技術者試験対策(3)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
4	基本情報技術者試験対策(4)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
5	基本情報技術者試験対策(5)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
6	基本情報技術者試験対策(6)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
7	基本情報技術者試験対策(7)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
8	基本情報技術者試験対策(8)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
9	基本情報技術者試験対策(9)	関連科目の講義内容の復習、問題演習
10	ジョブパス対策(1)	ジョブパス問題演習
11	ジョブパス対策(2)	ジョブパス問題演習
12	MOS Excel対策	MOS Excel問題演習
13	漢字検定対策(1)	漢字検定問題演習
14	漢字検定対策(2)	漢字検定問題演習
15	漢字検定対策(3)	漢字検定問題演習
16	国家試験対策	関連科目の講義内容の復習、問題演習
17	後期試験期間	-

備考

-

科目	やってみなはれ演習 I	分類	教養、必修科目
担当	菊池 浩之		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	オリジナル教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

様々な事を題材に、社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。

2. 授業の目標(検定取得など)

4年間を共にするクラスの仲間を知り、結束を高める。

3. 注意点・要望

真剣に楽しむことを考慮し、精一杯対応する。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	各種スケジュールの共有	スケジュール共有
2	目標とアクションの明確化(1)	自分自身の前期目標を定め、ドキュメント化する
3	交流(1)	クラスでの結束を高める
4	交流(2)	クラスでの結束を高める
5	交流(3)	クラスでの結束を高める
6	目標とアクションの明確化(2)	自分自身の前期目標を定め、ドキュメント化する
7	交流(4)	クラスでの結束を高める
8	交流(5)	クラスでの結束を高める
9	交流(6)	クラスでの結束を高める
10	目標とアクションの明確化(3)	自分自身の前期目標を定め、ドキュメント化する
11	能力の実践(1)	各セクションに分かれて行動
12	能力の実践(2)	各セクションに分かれて行動
13	能力の実践(3)	各セクションに分かれて行動
14	能力の実践(4)	各セクションに分かれて行動
15	前期振り返り	前期振り返りと夏休みの計画について

備考

-

科目	やってみなはれ演習Ⅱ	分類	教養、必修科目
担当	菊池 浩之		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	オリジナル教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

様々な事を題材に、社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。

2. 授業の目標(検定取得など)

4年間で共にするクラスの仲間を知り、結束を高める。

3. 注意点・要望

真剣に楽しむことを考慮し、精一杯対応する。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	後期演習内容ガイダンス	後期の行事、並びに「基礎的・汎用的能力」を意識した活動計画の立案及び共有
2	レポート作成	後期で培いたい基礎的・汎用的能力についてのレポートを作成する
3	基礎的・汎用的能力の実践(1)	若幸祭でのクラス企画に関し各人役割を担い、各役割に応じた活動
4	基礎的・汎用的能力の実践(2)	若幸祭でのクラス企画に関し各人役割を担い、各役割に応じた活動
5	基礎的・汎用的能力の実践(3)	若幸祭でのクラス企画に関し各人役割を担い、各役割に応じた活動
6	基礎的・汎用的能力の実践(4)	若幸祭でのクラス企画に関し各人役割を担い、各役割に応じた活動
7	基礎的・汎用的能力の実践(5)	若幸祭でのクラス企画に関し各人役割を担い、各役割に応じた活動
8	振り返り	3～7週に行った内容及び若幸祭全体について各グループ振り返りを行い、できた点・改善点をクラス全体で共有
9	基礎的・汎用的能力の向上(1)	基礎的・汎用的能力(主に人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力)の向上に向け、グループワークを実施
10	基礎的・汎用的能力の向上(2)	基礎的・汎用的能力(主に人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力)の向上に向け、グループワークを実施
11	基礎的・汎用的能力の向上(3)	グループワークの成果発表
12	年内振り返り	年内振り返りと冬休みの計画について
13	基礎的・汎用的能力の向上(4)	基礎的・汎用的能力(主に人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力)の向上に向け、グループワークを実施
14	基礎的・汎用的能力の向上(5)	基礎的・汎用的能力(主に人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力)の向上に向け、グループワークを実施
15	基礎的・汎用的能力の向上(6)	グループワークの成果発表
16	振り返り	9～11週と13～15週に行った内容について各グループ振り返りを行い、できた点・改善点をクラス全体で共有
17	後期振り返り	2週に作成したレポートに対しての後期振り返り 春休みの計画について

備考

-